



南浦和中だより



第 2 号
 平成30年 5 月 1 日(火)
 さいたま市立南浦和中学校
 さいたま市南区辻 6-1-33
 TEL 048-863-0753
 さわやか相談室 直通
 TEL 048-837-5909

《学校教育目標》日に新た 心豊かに たくましく



「我いまだ木鶏^{もっけい}たりえず」

校長 益子 慶次

若葉の眩しい季節となりました。平成30年度が順調にスタートし、生徒たちの生き生きとした姿を様々な場面で目にするようになりました。1年生は部活動の本入部が始まり、また一步「中学生らしく」になりました。2年生は、後輩が初めてできて一生懸命面倒を見ています。生活ぶりも自覚を感じます。そして、学校の顔となった3年生は、この1ヶ月間でずいぶん最上級生らしい雰囲気が出てきました。今年度はすべての行事や取り組みに「中学校生活最後の」という言葉がつきます。ぜひ、充実した、満足のいく1年間にしてください。また、昨年度より登校時刻が5分早くなりましたが、遅刻どころかその5分前行動で皆さん頑張っています。日課を変更して朝読書と朝清掃をしていますが、どのクラスもとてもよく取り組んでいます。



さて、話は変わりますが、昭和の名横綱・双葉山はご存知でしょうか。その双葉山が、大相撲で歴代1位の69連勝で敗れたとき、『我いまだ木鶏^{もっけい}たりえず』と自分自身の未熟さを、恩師に宛て電報を打ったそうです。この言葉は、次のような故事に由来しています。「昔の中国、闘鶏^{とうけい}(ニワトリとニワトリが戦う競技)を訓練する名人が王様から一羽の鶏の訓練を仰せつけられました。10日経って王様が『どうだ、もうそろそろ使えるのでは?』と尋ねると、『まだまだです。今はやみくもに殺気立ってしきりに敵を求めています。』それから10日経ち、王様がまた尋ねると『いや、まだです。他の鶏の声を聞いたり、気配を感じたりしますと、たちまち闘志をみなぎらせます。』また10日経って、王様が尋ねると『まだダメです。他の鶏を見ると、にらみつけたり、いきり立ったりします。』さらに10日経って尋ねると、名人はこう答えました。『もうよろしゅうございます。そばで他の鶏がいくら鳴いても跳んでも、いっこうに動ずる気配がなく、まるで木彫の鶏のように見えます。これこそ徳が充実している証拠でございます。こうなれば、どんな鶏でもかないっこありません。姿を見ただけで逃げ出してしまうでしょう。』そして、実際に闘わせてみると、他の鶏は闘わずして逃げてしまいました。」



真の強さとか魅力とは、単に体力や技の向上を図るという目に見える努力だけではなく、このような内面から鍛えられる品位や風格です。自信をもって自分自身を表現できるようになるだけではなく、余計な言動をとらなくても周囲からは一目置かれる人こそ、真に強く魅力ある存在なのだと思えます。

戦後の政治家に多くの影響を与えた安岡正篤^{まさひろ}師は『人間は面^{つら}よりも背の方が大事だ。徳や力というものはず面に現れるが、それが背中、つまり「後ろ姿」＝「肩背」にあふれるようになってこそ本物である。後光がさすというが、前光より後光である。』『人を観るときは前より後ろから観るのがよい。前はつくろえるが、後ろはごまかせない。だから後ろ姿が淋しいというのは何よりもよくない。逆に立派だと言われるようになれば、人間ができたというものだ』と言っています。

これが本当の魅力なのでしょう。こんな魅力のある人間になるには、かなり厳しい修練が必要だと思えますが、少しでも近づこうとする意識だけは日々もち続けたいものです。